

松嶋夜話 卷之下 44

〔原文〕丁巳之夏風於御島松吟菴而歸次

〔訓読〕丁巳の夏、御島の松吟菴に風して歸り次（やど）る

〔原文〕享竹浦法性院主

〔訓読〕竹浦の法性院の主に享せらる

〔原文〕室中經机厝有阿彌陀經之序跋者

〔訓読〕室中經机に阿彌陀經の序跋有る者を厝（お）く

〔原文〕閱之念年前所余書也

〔訓読〕之を閱れば、念年の前、余が書する所なり

※「念年前」…よくわかりません

〔原文〕序文雖拙勇爲人者也

〔訓読〕序文拙（つたな）しと雖も、人を爲すに勇む者なり

〔原文〕仍攜來置于夜話中

〔訓読〕仍て攜來し夜話の中に置く

〔原文〕依以示新發意菩薩

〔訓読〕依りて以て新發意の菩薩に示す

〔原文〕勿謂向下勸於人好矣

〔訓読〕向下に人を勸むこと謂ふこ勿くんば好し

〔原文〕序曰蓋末代人小彌陀經宜看轉矣

〔訓読〕序曰く、蓋し末代の人は、小阿彌陀經、宜しく看轉すべし

〔原文〕其故奚也

〔訓読〕其の故は奚ぞや

〔原文〕無量壽經之說曰

〔訓読〕無量壽經の說に曰く

〔原文〕當來之世經道滅盡

〔訓読〕當來の世に經道滅盡す

〔原文〕我以慈悲特留此經百歲

〔訓読〕我慈悲を以て特(ひと)り此の經を留むること百歲せんと

〔原文〕又法滅經曰

〔訓読〕又法滅經曰はく

〔原文〕爾時首楞嚴經先滅

〔訓読〕爾の時、首楞嚴經先ず滅す

〔原文〕以次諸經悉滅

〔訓読〕以て次に諸經悉く滅す

〔原文〕獨留無量壽經度諸衆生

〔訓読〕獨り無量壽經を留め、諸の衆生を度すと

〔原文〕雲棲疏鈔云

〔訓読〕雲棲の疏鈔に云ふ

※雲棲祿宏（1535年－1615年）…中国明代の高僧。浙江省杭州府仁和県の出身。

〔原文〕今謂諸經悉滅

〔訓読〕今謂ふ諸經悉く滅す

〔原文〕此經獨存

〔訓読〕此の經獨り存す

〔原文〕念佛一門廣度群品

〔訓読〕念佛の一門廣く群品を度せば

〔原文〕則諸經已滅而不滅

〔訓読〕則ち諸經已に滅して滅せず

〔原文〕即是以一存餘

〔訓読〕即ち是れ一を以て餘を存す

〔原文〕流傳無盡

〔訓読〕流傳盡くること無く

〔原文〕正總持之謂也

〔訓読〕正しく總持の謂いなり

〔原文〕一切衆生應當尊重恭敬信受奉行

〔訓読〕一切の衆生、應當（まさ）に尊重、恭敬、信受、奉行すべし

〔原文〕亦復慧心往生要集曰

〔訓読〕又復慧心の往生要集に曰く

※往生要集…比叡山中、横川の恵心院に隠遁していた源信が、寛和元年（985年）に、浄土教の観点より、多くの仏教の經典や論書などから、極樂往生に関する重要な文章を集めた仏教書で、一部の巻からなる。

〔原文〕日日讀誦可隨此小阿彌陀經

〔訓読〕日日の讀誦は此の小阿彌陀經に隨すべし

〔原文〕又梁道珍法師曰能雖講涅槃經特以不誦此經不復海上極樂寶舫

〔訓読〕又梁の道珍法師の曰く、涅槃經を講ずと雖も、特り此の經を誦せざるを以て、海上の寶舫に使せず

〔原文〕唐善導大師曰凡有觀施用寫彌陀經十萬卷

〔訓読〕唐の善導大師曰く、凡そ觀施用有れば、用ひて彌陀經十萬卷を寫す

※觀施…施し物

〔原文〕繪淨土變相三百壁

〔訓読〕淨土の變相三百壁を繪くと

〔原文〕唐大行禪師曰

〔訓読〕唐の大行禪師曰く

※大行…唐・乾符六年（879）。齊州（山東省歷城縣）の人。著書に『宗崇念仏』があったとされる。泰山に入って修行し、最初は法華普賢懺法を修行したが、この身が無常であることを悟って来世を願うようになり、『阿彌陀經』を手に入れて日夜読誦し、ついに三昧発得して阿彌陀仏を觀見した。その後、「信憶称敬」の四字を浄土修行の標語として掲げ、道俗に念仏を弘通した。『念仏鏡』によると、相好を觀じない口称念仏のみを行い、読経よりも口称念仏の価値を重んじたという。宮中に召されて常精進菩薩の号を賜り、さらに開国公の封号を与えられて一年の後に遷化した。

〔原文〕初修普賢懺後入經藏中

〔訓読〕初め普賢懺を修し、後に經藏の中に入る

〔原文〕隨手取一卷

〔訓読〕手に隨いて一卷を取る

〔原文〕得此一經者亦是此經也

〔訓読〕此の一經を得たりとする者は是れ此の經なり

〔原文〕今此經者日課讀誦流通之本也

〔訓読〕今此の經は、日課讀誦流通する本なり

〔原文〕如大本無量壽經中本十六觀經

〔訓読〕大本の無量壽經、中本の十六觀經の如きは

〔原文〕皆西方觀法教也

〔訓読〕皆西方の觀法教なり

〔原文〕吁誦人宜得其意

〔訓読〕吁、誦む人、宜しく其の意を得べし

〔原文〕蓮花軒性空欽告誦經人焉

〔訓読〕蓮花軒の性空欽みて誦經の人に告ぐ

※性空（しょうくう、延喜一〇年（910年）－寛弘4年3月10日（1007年3月31日））は、

平安時代中期の天台宗の僧。父は従四位下橘善根。俗名は橘善行。京都の生まれ。書写上人とも呼ばれる。

〔原文〕仍題一偈於其后

〔訓読〕仍て一偈を其の後に題し

〔原文〕唯身淨土唯心佛

〔訓読〕唯身の淨土、唯心の佛

〔原文〕一念回光不覓他

〔訓読〕一念回光、他に覓めず

〔原文〕如是我聞如是說

〔訓読〕是の如く我聞き、是の如く説く

〔原文〕聞人皆出苦娑婆

〔訓読〕聞く人皆苦娑婆を出づ